

岐阜信金と南ひだ森林組合

CO₂排出枠創出で協定

岐阜信用金庫(岐阜市)と南ひだ森林組合(下呂市)、カーボンクレジット創出販売のバイウィル(東京都)は27日、二酸化炭素(CO₂)排出削減や森林事業者への資金循環の実現に向けて連携協定を結んだ。森林Jークレジット(排出枠)の創出や企業のクレジット購入の仲介に連携して取り組む。

森林Jークレジットは間伐など適切に管理されている森林のCO₂吸収量を国が認証し、販売可能なクレジットとして発行する仕組み。

計画では、森林組合は2025年に年間5千トンのCO₂を吸収するとされる1千鈔のクレジット登録を目指す。

す。その後は毎年250鈔ずつを追加登録する。同金庫はクレジットを購入したい取引先企業をバイウィルに紹介する。購入代金は森林組合に入り、同金庫とバ



協定書に署名した(右から)大野達哉常務理事、細江広仲代表理事組合長、下村雄一郎社長。岐阜市神田町、岐阜信用金庫本部

イウィルは手数料収入を得られる。

岐阜市内で締結式があった。同金庫の大野達哉常務理事は「カーボンニュートラルを目指す企業との架け橋となる」、森林組合の細江広仲代表理事組合長は「森林林業の成長産業化を実現する」、バイウィルの下村雄一郎社長は「この取り組みを全国に発信したい」と述べた。